

第1学年 音楽科学習指導案

鹿児島県立松陽高等学校

平成19年12月13日 5限

場所：音楽室2

第1学年7組(17名)

指導者 増森健一郎・沢田千保

1 題材名 「7度音程と2声部和声の聴音学習」

2 指導目標

- (1) リズムを正確に記譜できるようにする。
- (2) 7度音程を含む単旋律聴音に慣れさせ、正しい音程をつかむことができるようにする。
- (3) 2声部の和声聴音に慣れさせ、正しい音程をつかむことができるようにする。

3 評価の規準

- (1) 正しく記譜できる。
- (2) 正しく音程をつかむことができる。

4 題材について

(1) 題材設定の理由

ソルフェージュの能力は、演奏の様々な面において重要なものである。実技の試験等を聴いていても、音程感覚やリズム感などソルフェージュの能力によるところが大きい。これまでの聴音の授業において、2学期からは順次進行主体から跳躍音程へと移行してきたが、音程が離れるほど難しく感じるようで、特に7度音程につまずいているものが少なくない。ちょうどコール・ユープンゲンの授業においても7度音程を扱っており、この時期に集中的に取り組むことによって、少しでも自信をつけさせたいと考えている。また、これまでの3年生の実態をみると、入試を控えたこの時期でも和声聴音に苦手意識をもっている生徒が非常に多いため、早い時期から和声聴音に取り組む必要性を感じている。以上のような理由から、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

明るく、授業に対して非常に前向きに取り組んでいるクラスである。本校に入学してから本格的にソルフェージュを始めた生徒が半数以上を占め、楽譜の基礎知識や音感の基礎的能力の未熟な生徒も多い。これまで、リズム聴音、C-dur、a-moll、F-dur、d-moll、G-dur、e-mollの単旋律聴音を中心に行っており、2声聴音に入ったばかりであるが、徐々に個々の能力の差が開き始めている。そのため、クラスを習熟度別に二つに分け、それぞれに合った課題に取り組ませている。このクラスは、比較的ソルフェージュの能力が高くない生徒のクラスである。

5 指導計画

(全：3時間 本時：2/3)

過程・段階	主な学習活動	指導上の留意点	教材
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・ シンコペーションを含むリズム聴音に慣れる。 ・ 視唱によって7度音程の感覚をつかみ, 7度音程を含む単旋律聴音に慣れる。 ・ C-dur (S+A) の和声聴音 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい記譜の仕方に注意させる。 ・ 転回形から7度の音程を感覚的に定着させる。 ・ 響きの中から個々の音を聴き分けられるようにする。 	<p>五線紙</p> <p>板書</p>
第2時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ シンコペーションを含むリズム聴音を正確に記譜する。 ・ 視唱の復習をし, 7度音程を含む単旋律聴音を正確に記譜する。 ・ C-dur (S+B) の和声聴音 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽譜のきまりに則った記譜の仕方を徹底させる。 ・ 7度音程を含む跳躍音程を正確に捉えさせる。 ・ 特にバス声部の音程に注意して聴き取らせる。 	<p>五線紙</p>
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・ シンコペーションを含む難易度の高いリズム聴音を正確に記譜する。 ・ 視唱の復習をし, 7度音程を含む難易度の高い単旋律聴音を正確に記譜する。 ・ C-dur (T+B) の和声聴音 	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイや休符も含めて正確に聴き分けさせる。 ・ リズムと音程の両方を正確に捉えられるようにする。 ・ 聴き取りにくいテナーとバスの聴き取りに慣れさせる。 	<p>五線紙</p>

6 本時 (2 / 3)

(1) 目標

- ア シンコペーションのリズムを正確に聴き分け，記譜できるようになる。
- イ 7度音程を含む跳躍音程を正確に聴き分けられるようになる。
- ウ ソプラノ + バスの2声部和声を正確に聴き取れるようになる。

(2) 実際

	主な学習活動	時間	指導上の留意点 評価の観点
導 入	・リズム記憶聴音 (4 / 4 拍子 4 小節)	5 分	5 回聴いて覚えさせる。 シンコペーションのリズムが正確に記譜できているか。
	・旋律記憶聴音 (C-dur 4 / 4 拍子 4 小節)	5 分	同じリズムを使うことで，音程に集中できるようにする。 跳躍音程が正確に聴き分けられているか。
展 開	・ 7 度音程の視唱練習	3 分	長 7 度，短 7 度とその転回型の短 2 度， 長 2 度を比較させ，感覚的に捉えさせる。 正しい音程で歌えているか。
	・ 旋律聴音 (C-dur 3 / 4 拍子 8 小節)	15 分	机間指導をしながら，必要なら回数を 増やして確実に音程を認識できるよう にする。 跳躍音程を正しく記譜できたか。
	・ 旋律聴音 (a-moll 6 / 8 拍子 8 小節) 残り時間によっては省略する	15 分	机間指導をしながら，必要なら回数を 増やして確実に音程を認識できるよう にする。 跳躍音程を正しく記譜できたか。
	・ 和声聴音 (C-dur 2 声 S+B 2 / 2 拍子 8 小節)	5 分	机間指導をしながら，必要なら聴き取 りにくい方の声部を大きく弾くなどし て確実に聴き取れるようにする。 2 声部を正しく聴き取れたか。
ま と め	・ 学習成果の確認と，課題の認識	2 分	本時の学習内容を振り返り，個々の課 題を認識させる。

